

保存版

杵築市

下水道計画区域における 内水ハザードマップ

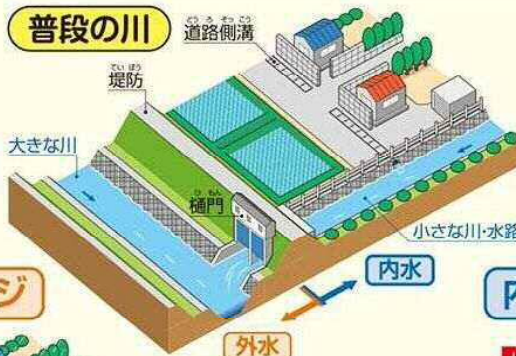
(大雨による浸水想定区域図)

内水ハザードマップとは

内水ハザードマップは、下水道計画区域内で排水路や道路側溝の排水能力を上回るような降雨が発生し、八坂川・高山川の水位や守江湾の潮位が高くなり、排水できなくなるときに発生する浸水（内水による浸水）を対象としています。

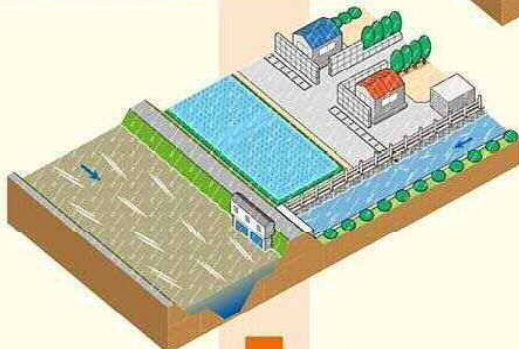
水害から事前に身を守るため、このハザードマップを有効にご活用下さい。

内水はん濫と外水はん濫の違い

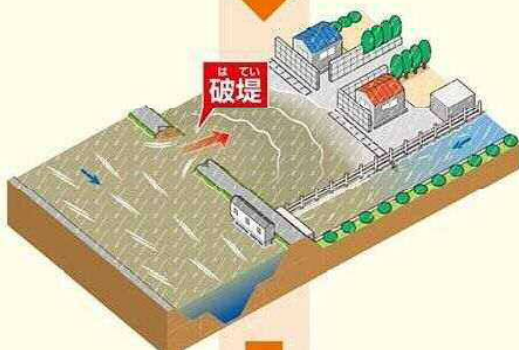


※1「外水」:
河川を流れている水

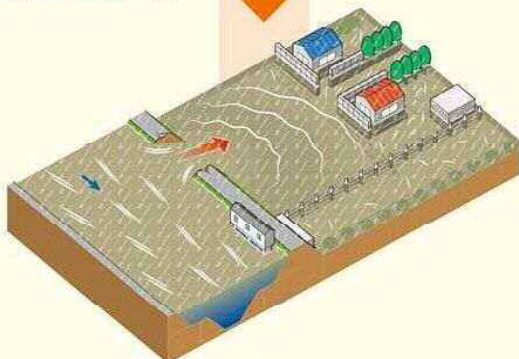
外水※1はん濫のイメージ



雨が降ると川の水位が上昇してきます。このとき、大きな川の水が小さな川に流れ込まないように樋門を閉めます(逆流防止)。



さらに雨が降りつづき、川の計画を越える洪水となった場合、堤防を越えたり、破堤したりして、家屋等が浸水します。これが「外水はん濫」です。



ひとたび外水はん濫が起こると、はん濫した水はすごい勢いで流れ込み家屋等を飲み込んでいきます。できるだけ早く情報を入手し、高い所へ避難する必要があります。

<用語の説明>

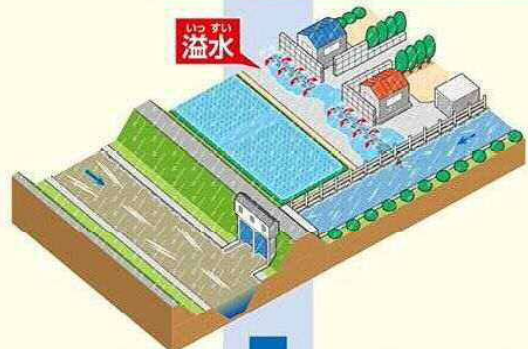
「破堤」: 堤防が壊れること

「越水」: 水が堤防を越えること

「溢水」: 水があふれること

※2「内水」:
堤防で守られた内側の土地にある水

内水※2はん濫のイメージ

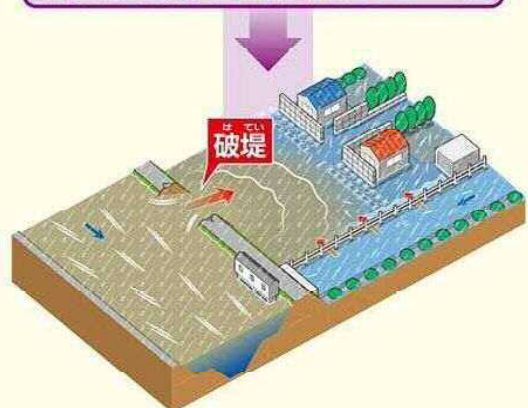


雨が降ると川の水位が上昇してきます。このとき、大きな川の水が小さな川へ流れ込まないように樋門を閉めます(逆流防止)。そのため、小さな川が流れなくなり低い田畑に水がたまったり、道路側溝から水が溢れだします。



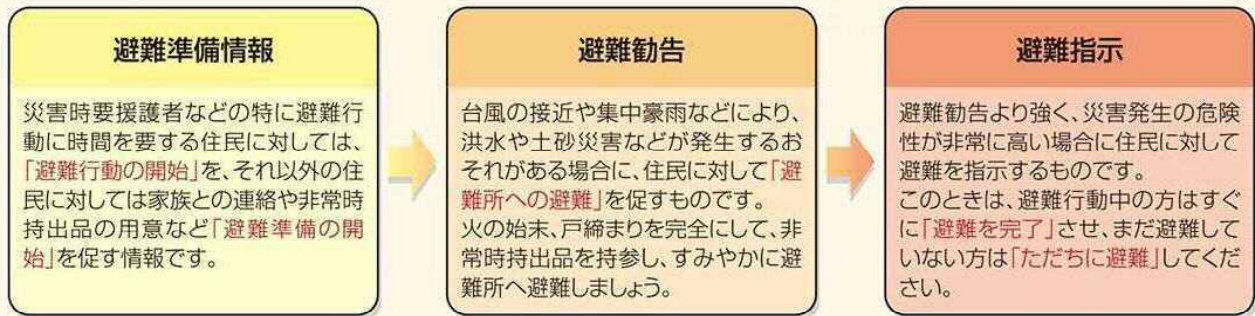
さらに雨が降りつづき、川の水位が上昇すると、小さな川から溢れだし、道路や家屋が浸水します。これが「内水はん濫」です。

内水+外水はん濫のイメージ

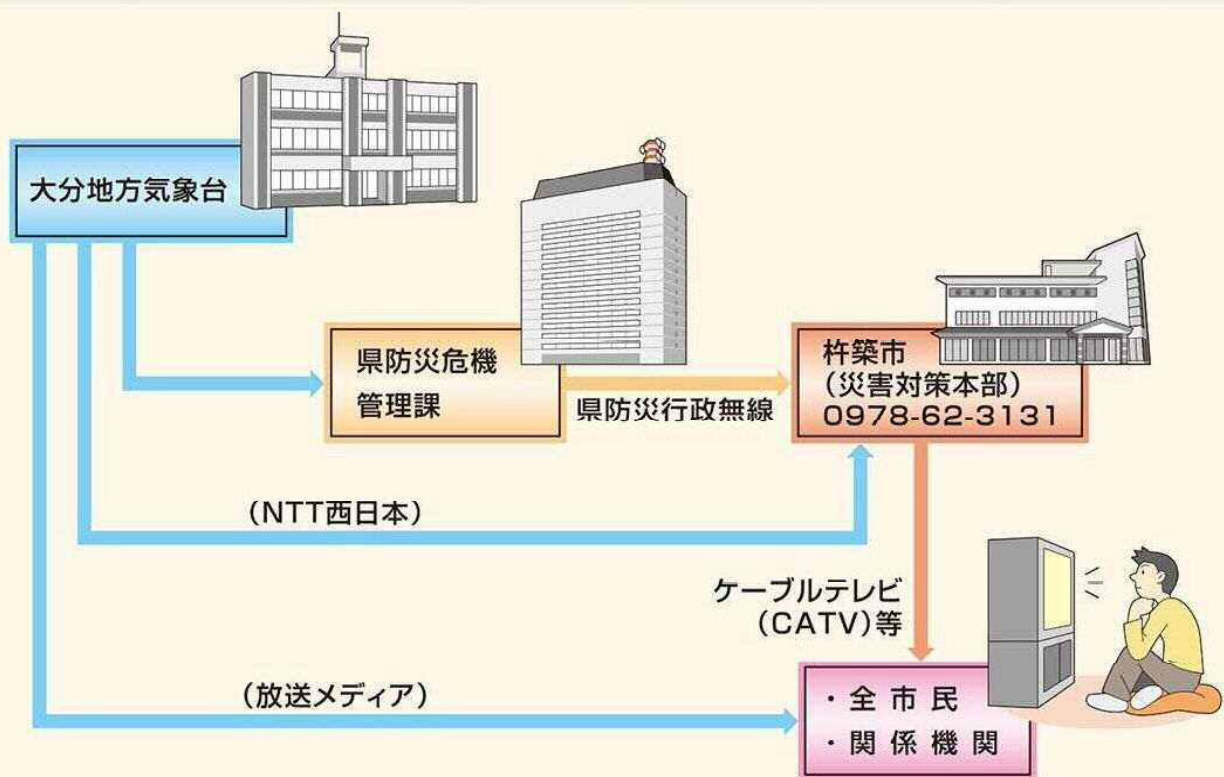


さらに雨が降りつづき、川の計画を越える洪水となった場合、内水により浸水した箇所に、堤防の破堤等による外水はん濫が発生し、さらに大規模な浸水となることも想定されます。

市から提供される避難情報について



情報伝達経路



防災情報の収集先

行政機関のホームページ	大分県	http://www.pref.oita.jp/
	杵築市	http://www.city.kitsuki.lg.jp/
	国土交通省 大分河川国道事務所	http://www.qsr.mlit.go.jp/oita/
	気象庁 大分地方気象台	http://www.jma-net.go.jp/oita/
河川の水位等の情報	大分県 雨量・水位観測情報	http://river.pref.oita.jp/
	国土交通省 リアルタイム川の防災情報	http://www.river.go.jp/
防災に関する情報	国土交通省 防災情報提供センター	http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/
	気象庁 防災気象情報	http://www.jma.go.jp/jma/menu/flash.html
	大分県 安全・安心のページ	http://www.pref.oita.jp/site/bosaiizen/
	大分県 土砂災害情報 インターネット提供システム	http://sabo.pref.oita.jp/dosya/
	海上保安庁 大分海上保安部	http://www.kaiho.mlit.go.jp/O7kanku/oita/

雨の強さと降り方の目安

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を覚えておきましょう。

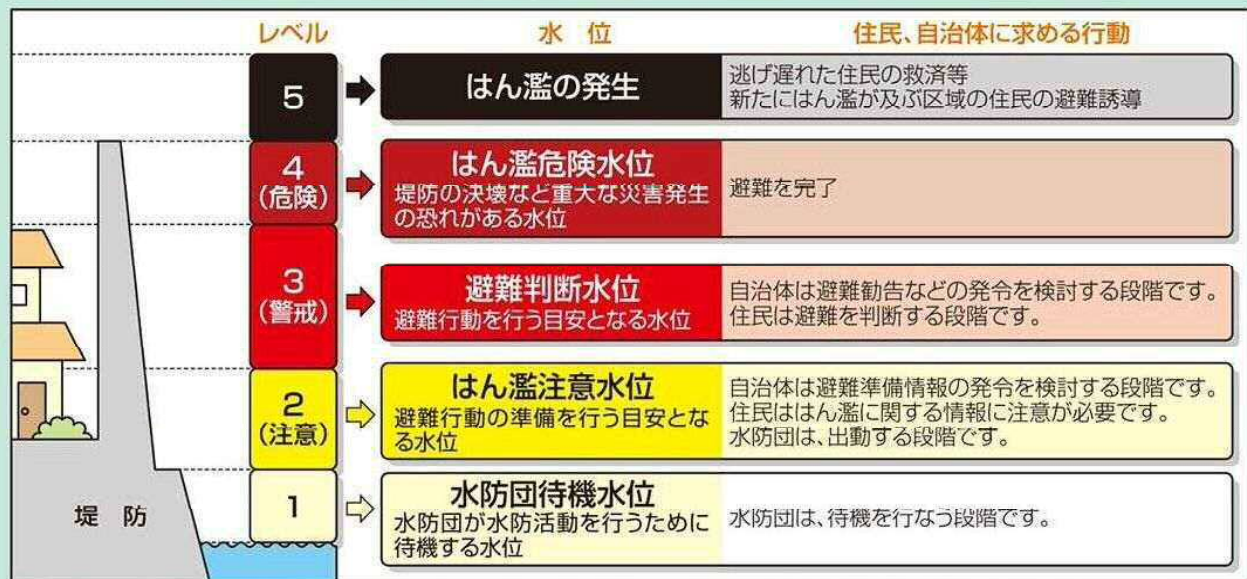
	やや強い雨 (10~20mm)	強い雨 (20~30mm)	激しい雨 (30~50mm)	非常に激しい雨 (50~80mm未満)	猛烈な雨 (80mm以上)
予報用語 (1時間雨量)					
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような 圧迫感がある 恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで 足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内 (木造住宅を想定)	雨の音で話し声が よく聞き取れない		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、 視界が悪くなる	
車に乗っていて	ワイパーを速くしても 見づらい		高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	

行動の目安

情報収集	気象情報の収集 雨の継続中は、 地盤の緩みに注意	予報・警報等に注意	避難に関する情報に注意	
自助 自分でできる 予防措置等	河川や水路等 注意を要する箇所等に 近づかない	土のう等の準備 低地部にある車の移動	初期の浸水対応 地下空間からの退避	退避の準備 状況に応じ、速やかな退避
共助 地域防災への取組等	状況により 自主防災組織の活動への協力		状況により災害時要援護者への支援に協力	

河川の水位に応じた危険度レベル

内水によるはん濇は、八坂川や高山川の河川水位の影響を受けることがあります。大分県が河川の水位に応じた危険度レベルを設定していますので、避難する際の参考にしてください。



■河川の水位情報はインターネットから入手することができます。大分県の雨量・水位観測情報…<http://river.pref.oita.jp/>

緊急連絡先

緊急 警察 110

火事・救助・救急車 消防 119

海の事件・事故 118

		施設名	所在地	電話番号
市 役 所		杵築市役所	杵築市大字杵築377番地1	0978-62-3131
		杵築市役所 山香庁舎	杵築市山香町大字野原1010番地2	0977-75-1111
		杵築市役所 大田庁舎	杵築市大田石丸445番地	0978-52-2222
消 防		杵築速見消防組合 消防本部 杵築消防署	杵築市大字中1412	0978-62-4341
		杵築速見消防組合 杵築消防署 山香出張所	杵築市山香町大字野原1857-1	0977-75-1090
		杵築日出警察署	速見郡日出町大字藤原字友田2277番地2	0977-72-2131
警 察		杵築日出警察署 杵築幹部交番	杵築市大字杵築665-465	0978-62-2131
		杵築日出警察署 八坂警察官駐在所	杵築市大字本庄196-1	0978-62-3436
		杵築日出警察署 山香上警察官駐在所	杵築市山香町大字久木野尾3830-3	0977-78-0350
		杵築日出警察署 山香中警察官駐在所	杵築市山香町大字内河野2724-3	0977-75-0110
		杵築日出警察署 立石警察官駐在所	杵築市山香町大字立石1260-3	0977-76-2131
		杵築日出警察署 大田警察官駐在所	杵築市大田石丸1073	0978-52-2131
		九州電力 別府営業所	別府市餅ヶ浜町4番33号	0120-986-503
ライフ ライン	電 気	九州電力 中津営業所	中津市中央町一丁目2番5号	0120-986-501
	水 道	杵築市上下水道課	杵築市大字杵築377番地1	0978-62-3131
	電 話	NTT西日本 大分支店	大分市長浜町3-15-7	(一般電話)局番なし「113」 (携帯・PHS)0120-444-113
	ガス*			

※ライフラインの“ガス”に関する連絡先は、各ご家庭で利用されているガス会社の連絡先をご記入下さい。

■わが家の防災メモ

わが家の避難所	
非常時の家族の集合場所	

家族の名前	電話番号	学校・勤務先などの連絡先	保険証番号

■非常時持出品

貴重品類	現金、10円玉	<input type="checkbox"/>	救急用具	三角巾、包帯	<input type="checkbox"/>	生活用品など	滑り止め付軍手	<input type="checkbox"/>	
	預金通帳	<input type="checkbox"/>		脱脂綿	<input type="checkbox"/>		ビニールシート	<input type="checkbox"/>	
	カード類	<input type="checkbox"/>		ばんそうこう	<input type="checkbox"/>		ヒモ、ガムテープ	<input type="checkbox"/>	
	健康保険証	<input type="checkbox"/>		風邪薬、胃腸薬	<input type="checkbox"/>		ティッシュ	<input type="checkbox"/>	
	免許証	<input type="checkbox"/>		常備薬	<input type="checkbox"/>		裁縫道具	<input type="checkbox"/>	
	証書類	<input type="checkbox"/>		非常食料・食器	乾パン		<input type="checkbox"/>	洗面用具	<input type="checkbox"/>
	印鑑	<input type="checkbox"/>		衣 類	缶詰		<input type="checkbox"/>	そ の 他	生理用品
家や車のキー	<input type="checkbox"/>	ミネラルウォーター	<input type="checkbox"/>		赤ちゃん用品	<input type="checkbox"/>			
避難用具	携帯ラジオ	<input type="checkbox"/>	組食器、缶きり等		<input type="checkbox"/>	筆記用具	<input type="checkbox"/>		
	懐中電灯、ろうそく	<input type="checkbox"/>	下着類	<input type="checkbox"/>	住所録のコピー	<input type="checkbox"/>			
	予備電池	<input type="checkbox"/>	防寒着	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			
救急用具	ヘルメット	<input type="checkbox"/>	雨ガッパ	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			
	生活用品など	消毒液	<input type="checkbox"/>	タオル、ハンカチ	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
		傷薬	<input type="checkbox"/>	万能ナイフ	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
		湿布薬	<input type="checkbox"/>	マッチ、ライター	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		



避難時の注意事項

避難時の心得



- 避難をする前に、電気・ガスなどの火元を消し、避難場所を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難をする旨を連絡しておきましょう。



- 避難勧告などは、危険が迫ったときに出示されますので、速やかに避難しましょう。避難の際には警察などの指示に従いましょう。



- 車での避難は緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなりますので、特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。



- 避難場所では、市職員や消防団員の指示に従ってください。洪水の状況に関して、ラジオ・テレビ・市からの情報などを伝達しますので、落ち着いて行動してください。

援助が必要な人がいたら...



- 目の不自由な方には、まず声を掛けましょう。誘導するときは、杖を持っていないほうの肘のあたりを軽く支え、ゆっくりあるきましょう。



- 耳の不自由な方には、近くまでよって相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。また、紙とペンで筆談しましょう。



- 身体の不自由な方には、それぞれの人に適した誘導方法を確認し、恐怖感を与えないように配慮しましょう。

洪水の中を歩くときの注意事項

- 歩ける水の深さはひざの高さまでです。流れが速いと20センチの深さでも危険です。無理をせず建物などの高所で救助を待つのが安全です。



- 裸足・長靴は禁物です。ひもでしめられる運動靴が動きやすい。



- 水面下では、側溝や水路・道路の段差やマンホールなど危険が潜んでいます。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながらあるきましょう。

- 高齢者や身体の不自由な人などは背負いましょう。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用するなどして安全を確保し避難しましょう。



- はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。特に子供から目を離さないように注意しましょう。

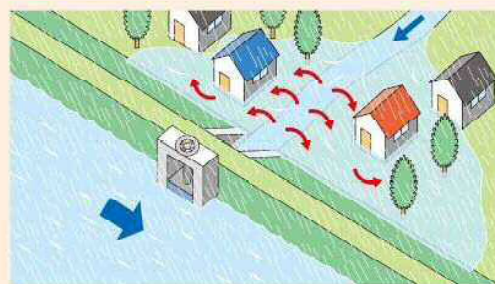


避難時の災害に注意



大雨によって、川の水の量が増えると、水が堤防の一部を越えたり、堤防が壊れたりして、大量の水が流れ込んできます。
場所によっては家を壊したり車などを押し流したりして危険です。

外水はん濫に注意!



大雨が降ると河川の水位が上がり大きな川に水が排水されずに小さな川や水路などが溢れてはん濫することがあります。
川の近くにお住いの方は注意が必要です。

内水はん濫に注意!

この内水はん濫が、今回のハザードマップの対象です。

内水ハザードマップ

大雨による洪水や地震が発生した場合は、

洪水・土砂防災マップ

土砂災害に注意!



大雨や地震によって地盤が緩むと、土砂災害が起こる危険があります。
雨が降っているときはもちろん、雨が止んでも危険な状態が続いているので注意が必要です。

地震や津波が発生した場合は、

津波防災マップ

津波に注意!



強い地震(震度4程度以上)を感じたとき、または弱い地震であっても長い時間揺れを感じたときなどは、直ちに海浜から離れ、急いで高台などの安全な場所に避難しましょう。